

視察研修等報告書

1 実施日 令和2年11月12日

2 参加者名 市川哲夫 中村浩 大西克美 藪田啓介 永戸孝之 池田憲彦

3 視察先及び事項

11月12日 花巻市 花巻家守舎リノベーションまちづくり

4 視察概要

花巻家守舎は2014年に小友康弘、高橋潤吉、高橋久美子、伊藤直樹の4名の地元住民により設立された。設立のきっかけは花巻市主催のオガール紫波を参考とした、リノベーションまちづくり勉強会であった。

花巻家守舎の最初の取り組みとして移転により遊休施設となっていた小友ビルの改修工事に取り組んだ。小友ビルは鉄筋コンクリート造りであるが1階と2階はテナントとして利用するため事業オーナーと店長が自分たちで作るというコンセプトを掲げ、家守舎がFaceBookなどで呼びかけをし工事のワークショップ化などに取り組み様々な工事にかかわっていただいたボランティアの人々はオープン後の常連客となった。

花巻家守舎の取り組みは固定資産税を払わなければならない、遊休施設を固定資産税程度の借賃で、利用希望者を募集しボランティアの協力者をまきこむことによりテナントをオープンすることでまちの賑わいを作るという手法である。

この取り組みは商業ベースに乗りにくい遊休施設を活用する手法として有効な方法であると考えます。



また、マルカン百貨店の閉店による該当施設の再活用においては、6階にある食堂運営を継続させるための取り組みであった。当事業では1階から5階までのテナントを確定し10年以上続けるための改修が必要な個所と初期コストの算定を行ったところ耐震補強や空調設備改修などに巨額の費用が必要と判明したために1階と6階の活用を目指した。

初期コストが2億円ほど不足することが判明したので、駐車場の有償化、1階のmarbleマーケットとしての活用などをの計画し、不足分についてはクラウドファンディングの手法をもって対応することで2017年2月のオープンにこぎつけた。

現在では地下の部分に週末限定であるがスケードボードのような施設を開設し若い人たちをも取り込んだ活性化をさせている。

このような手法は、補助金に頼らない地域の再生または活性化の手法として大変有効な取り組みであり本市においても研究すべき課題である。

